# あおい通信 第137号

第137号 平成28年10月1日
リハビリテーション
デイサービス葵・編集委員会
練馬区東大泉3－17－5
カトウビル3F
電話 03－3978－0919

## 日本の世界遺産めぐり
### その十九 明治の産業遺産⑨ （文化遺産）

**＊寺山炭窯跡**（てらやますみがまあと）は、鹿児島県鹿児島市吉野町にある、集成館事業で用いられる木炭を製造した石積み窯跡。

十九世紀中葉以降、薩摩藩に従属していた琉球王国周辺への黒船出没が頻繁に報告されるようになると、薩摩藩では富国強兵を進めて欧米列強に対抗しようとする動きが出るようになる。富国強兵論の筆頭である島津斉彬は、富国強兵派と財政再建派によるお家騒動である「お由羅騒動」を制して藩主に就任、後に「集成館事業」と呼ばれる一連の近代産業育成事業に乗り出す。薩摩藩の領地内では石炭を産出しないため、近代化事業に際して大量の木炭を必要とした。斉彬は供給不足に備えて、熱効率のよい白炭を製造する炭窯を設置することを計画し、紀州藩に奉行、山本籐助らを派遣し、熊野地方の製炭技術を学ばせた。

一八五八年（安政五年）薩摩国鹿児島郡鹿児島近在吉野村寺山（現在の鹿児島市吉野町寺山地区）に「寺山炭窯跡」が設置された。集成館の所在する磯地区に近く、シイ、カシなど、木炭に適した照葉樹に富む寺山地域の三箇所に炭窯を作らせた。旧集成館反射炉において溶鉄のために用いられた他、ガラスや陶磁器の製造にも利用された。３基のうちの１基が現存しているが、残り２基の建設場所はわかっておらず、いつ頃失われたのかも不明である。

現存する窯は、集成館から北北東約５・５㎞の場所に所在し、斜面地を利用して地面を掘削、１５００度の高温にも耐えられる凝灰岩を積み上げたものである。

**＊関吉の疎水溝**（せきよしのそすいこう）

鹿児島県鹿児島市下田町にある用水路。

一八五二年（嘉永六年）に築かれ、薩摩藩第二八代当主島津斉彬によって行われた集成館事業の動力源として利用された。二〇〇五年に鹿児島市史跡に指定、二〇一三年には、国の史跡「旧集成館」に追加指定された。長さは、鹿児島市によれば、稲荷川上流から仙巌園まで８㎞に及んだとされ、鹿児島県立図書館が一九九四年に刊行した「江夏十郎関係文書」によれば、６５１０ｍであるとされ、文化財保護審議会審議員であった西元肇による二〇〇六年の調査によれば、約７㎞であるとされた。

市街地造成や災害の影響により、実方橋の手前で途絶えており、約３㎞が現存。一部は農業用水路として利用されている。

## 世評・時評

### 築地移転問題

小池百合子知事が表明した築地市場の移転延期をめぐり、市場関係団体に対する都側の説明会が９月９日にあった。業界側には何ら事前の働きかけもなく、いきなり記者会見で「延期です」と。「これは一体何なのか？」と、築地市場の業界団体でつくる新市場建設協議会は云う。これに都側の代表、岸本良一・都中央卸売市場長が「準備を進めてきた皆様にご迷惑をかけた」と頭を下げたが、団体側は収まらなかった。不満が相次いだのは、知事の発言や政治手法に対してだった。知事は延期の第一理由は豊洲での「安全性への懸念」と説明。築地青果物商業組合理事長は、風評被害を助長することだけはやめてほしいと嘆いた。

鈴木敏行・東京シティ青果社長は、情報公開の不足について「移転時期土壌汚染対策についても全て情報公開はしてきた」とこれ以上の公開は何もないと疑問も出た。一方、移転延期に伴う卸業者の移転作業については都側は、中断か継続かどっちつかずの返答だ。

何れにしても、我国の庶民の、最大にして最も大事な台所である。食の安全性を必須の条件として早期決着を願いたい。

K・ドラゴン

## 雑記帳
### 美しい日本人
山村 匡子

今年も早や十月になったが、今年は東京に初めての女性知事が誕生したり、東北地方に観測史上初めての台風の上陸や北海道の記録的豪雨など、初めての事が多かった。

確実に日本の気候は変ったが、日本の若い人も変った。ＴＶでリオ・オリンピックを見ていて、日本の選手達は何て美しいのだろう、との思いが深かった。若い人のプロポーションが本当に良くなったのは、二、三世代位前からだと思うが、表彰台に上がった日本選手には、かつての胴長・短足や、ハリウッドで作られた出っ歯でガラス瓶の底の様な分厚い眼鏡の日本人のイメージは微塵もない。みな綺麗で清潔。礼儀正しく落ち着いていて、揃って美男美女。ユニフォームの赤が良く似合う。男子４００ｍリレーで中国選手と並んだ時、日本選手のオレンジがかった朱色が一際美しく、レース前に勝負が付いたと思った。

人種には夫々特徴がある。走るために生れて来た様なアフリカの選手は、環境のせいか水泳や格闘技は弱いようだ。環境に恵まれ体格も良いヨーロッパ圏の白人選手は陸上、水泳、なんでもござれ。アジア人は欧米人に比べ小粒だが、追いつこうと努力している。

ところで、日本語はアルタイ語圏に属していることをご存じだろうか。アルタイとは中国・モンゴル・ロシアに跨る山脈で、これを挟みトルコから中央アジア、モンゴル、満州、朝鮮、日本等の人達は中背でガッシリした体躯で、レスリングや柔道等の格闘技や重量挙げの様な競技に強い。その中で日本人は、欧米人同様に大方の競技をこなし、チームになると強い不思議な民族だ。

## 葵友の会 広報コーナー

### 9月の報告

１６日（金）カラオケ「バンバン」にて。９名の参加。

２６日（月）川越 うなぎ「いちのや」。

１９名の参加。昼食後に川越の街を歩きました。久しぶりのお天気の日でした。

（事務局長）

◆編集委員会より
「あおい通信」は、皆様からの原稿を募集しています。係員・飯島まで

# 利用者さんの絵コーナー

**関　修（火、日）**

四月からお世話になっております。初の経験なのではじめは迷いました。今では何とか慣れました。頑張ってやって行くつもりです。よろしくお願いします。

**山下　律子（木）**

仏教に興味があり、その延長で座禅、ヨガもやっていました。葵の昼の瞑想の時間では、その経験を生かし無に近づくようにと思っています。元気な方達と一日過ごせて楽しいです。

**宮崎　知代子（月）**

葵はメニューが多くて楽しいです。友達もできました。「ドンジャラ」とかやってみたいな。

## 卒寿男のたわごと

大内田　日出人

リオ・オリンピックも終った。ブラジル大統領の罷免問題や犯罪多発の国情等が報じられていたので、何か大きな問題が起きるのではないかと案じていたが、先ずは何事もなく終ったのを嬉しく思った。日本も過去最高の四十一個のメダルを獲得した事は、本当に嬉しい事である。

逆転勝や惜敗等のドラマチックな競技場面に、私はテレビの前で興奮し、大きな声を出し、拍手も送った。今回のオリンピックで感じた事がいくつかある。第一は日本の日の丸の国旗は世界一美しいと思った。メダルを獲り、日の丸の国旗が掲揚される度に、大きく手を叩いた。第二はスポーツ競技が素晴らしいと思った事である、激しく闘った後、勝敗が決すると、選手が握手して別れる場面が多く見られた。国威をかけての闘いの後であるだけに、感動するのであろうか。東京都知事の小池さんが着物姿でオリンピック旗を継承した。

四年後はいよいよ東京である。さすが日本だと云われる、素晴らしいオリンピックになる事を、今から期待している。

私もそれまでは生きていたいものだ。私は大正十三年の生まれで、満九十二才になる。この歳になると、学生時代、会社勤務時代、の親しかった友人、知己の人がすべて故人となった。妻も四年前に亡くなった。二人の弟も亡くなった。時折り云い知れぬ孤独感と寂寥感を覚える事がある。近頃は趣味を楽しんで、その事を忘れるようにしている、囲碁、俳句、カラオケ、麻雀、等々で全く趣味三昧の毎日である。どの集まりでも、皆さんが親切にしてくれるのが本当に嬉しい。

つづく

## 絲綢の路を疾るの記（之）
### ―シルクロード―
### 続篇

入江昭二

### 敦煌にて

敦煌石窟は雲崗石窟寺院、洛陽の竜門石窟寺院とならんで中国三大石窟寺院のひとつで、莫高窟とか千仏洞ともよばれている。古代シルクロードの商業、貿易、文化交流の要衝の地である。

タクラマカン砂漠の入り口にもあたりタクラマカンとは現地語で一度入ったら出られないの意で過酷な地である。一九八七年に世界遺産に指定されている。

莫高窟は敦煌郊外の鳴沙山の懸崖に大小さまざまな石窟が1600mの長さに造営されている。資料によると西暦三六六に創建され前後一六〇〇年におよび壁画、塑像作製、奉納されている。

小川を渡ると正面入口だ。さてガイドさんに案内されて大小幾つかの石窟の壁画、彫塑を見学した。写真撮影は許されていない、仏像仏画の素養はないが高松塚古墳の人物群像を思い出した。特に飛天（日本では天女にあたるか）が印象に残っている。

帰途に月牙泉に立ち寄る、ここは鳴沙山の麓にある泉である。不思議な地形なのだ。ゴビ砂漠（ゴビとは砂礫を含むステップの意）と異りこの辺一帯は草木ひとつもない完全な砂丘の奇観である。泉の一郭にわずかな木立があり砂丘の流砂にも埋没しない静かな、三日月形の小さな小さな湖である。観光用のラクダに揺られて近づいた。

泉の奥にある傾斜のゆるい鳴沙山に登ってみた。名称のとおり鳴き砂の山だったが音は確かめていなかった。この先に唐代の詩人「王維」が西域へ行く人を見送って作った詩に「西のかた陽関を出ずれば故人無からん」の関所である陽関がある。このルートが西域南道である。

敦煌を去る日「敦煌古城」に立ち寄る。ここは日中合作映画「敦煌」撮影のために作られたセットがそのまま残されている建物である。その大きさに驚いたものである。

（続く）

## なんでも盛塩講座　五

絹田治夫

先号からの続きです。

18世紀末には町火消の主体は鳶職になった。鳶職は建物の破壊に慣れていて、素人が出勤するよりはるかに役に立ったのである。

頭（かしら）、纏持ち、梯子持ち、平人足（ひらにんそく）まで、鳶がなお、活躍するようになる。全身に彫り物をして博打や押し売りで迷惑がられた火消したちは「臥煙（がえん）」といい、町火消ではなく定火消に雇われた火消人足である。色鮮やかな彫り物でぎっしり覆われているはずだ。

**「七日で仮店舗を建て営業再開」**

こんなに火事が多いので江戸っ子達も勿論、防火を心がけた。梯子、釣瓶（つるべ）、手桶、鳶口は、必ず備えておく、大事なものは、土蔵や穴蔵を作っておいてそこに入れておく、蔵の隙間を埋める目塗（めぬ）りの土を用心土といい、それは必ず備えていた。

つづく

**ふわふわ亭、わび助**

## 蒲公英会・俳句②

**影長く**

鮎解禁　川面に竿の　影長く　関

大岩に　波打ち砕やけ　皐月空　鳥越

窓越しの　保育園児や　白紫陽花　相川

楊貴妃の　愛でし荔枝や　夏の朝　富寿郎

七夕に　自作の一句　吊るしけり　大野

庭土に　空蝉のこし　消えたまま　松本

頬染めし　小梅九つ　砂糖漬け　和田

月見むと　夜空仰げど　星も無し　平岡

景の裏も　光満ちたる　若景かな　柳生

餅（こだま）して　夏うぐいすや　露天の湯　岸野

水鉢に　高き一輪　蓮の花　酒井

万緑の　豊かさたのしき　浄運寺　佐藤

もぎたての　胡瓜刻みて　朝餉かな　穂刈

五月雨や　神経痛に　顔しかめ　金子

**「中国」**

蚊柱の　一筋村の　寄合所　河角

## あおい俳壇・歌壇

立秋が　廊下の猫を　裏返す
網戸ぬけくる　風のささやき

揚げ茄子も　湯むきトマト　色冴え
厨（くりや）のひかり　夏から秋へ
福山淳一

百日草　ややちりがての　垣根ごし
雨（あま）がえる　のどの白さで　鳴きにけり
相田美代子

デイの日の　疲れを胸に　帰り来ぬ
ひ孫誕生の　メール鳴りいる
麻生伊登子